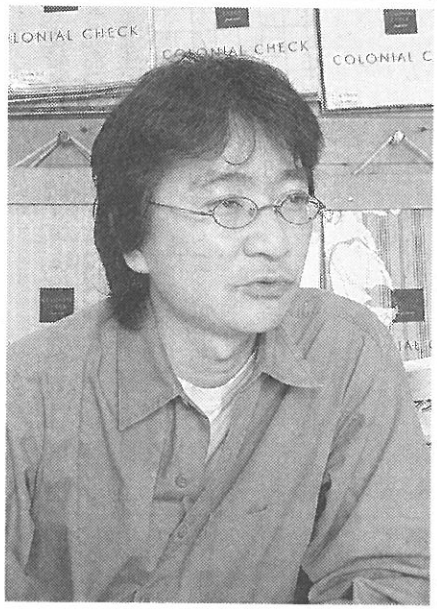
business interview

ビジネスインタビュー

オーガニック空間実現を

ビオプラス西條デザイン社長　西條　正幸　さん



エコで快適な暮らし　6

自然と共生し、循環型の住まいを推進するビオプラス西條デザイン（本社・札幌）。家づくりのコンセプトに「環境を守る」「自然を楽しむ」「健康を大切にする」「有機的で安全」などを掲げ、化学物質に頼らないオーガニック空間の実現を目指している。

―エコロジー住宅を手掛けるようになったきっかけは。

1995年に出版された「エコロジー建築」という1冊の本との出合いが始まり。子どもがアトピー性皮膚炎だったので、約11年前、自宅を建てるときにその手法を実践した。そのとき集めた安全な素材の情報が、今自分の財産になっている。そのころから「居心地の良い健康住宅を提供する」という基本的な家づくりの姿勢は変わっていない。

今年4月に社名を変更した。「ビオ」とは、ドイツやオーストラリアのオーガニック食品に表示されるラベリングとして「身体や環境にやさしい自然派商品」の総称を意味する。社名変更はこの精神を受け継ぎ、今後も厳選された自然素材の家づくりに努めたいという決意の表れでもある。

日常生活を環境教育の場に

―環境負荷の低減をどのように実践しているのか。

材料はリサイクルできるか、燃やしても害がないか、土に戻すことができるかなどを考えて選択してきた。この10年で、家づくりにおける環境負荷は、かなり低減したと思う。

材料調達はできるだけ地産地消を目指し、道産の無垢（むく）材やいい藻土、ホタテ貝を有効利用した漆喰（しっくい）などを積極的に活用している。そのほか和紙やオーガニックコットンの壁紙、天然塗料、エコケーブルの使用など、可能な限り自然素材にこだわっている。

断熱材は古紙を再利用したセルロースファイバーで、合成接着剤で固めた集成材は使わないようにしている。

シンプルな素材は、製造時のエネルギー消費や人の健康に与える害が少ない。これらの材料を使って建てた家は、温かみがあり、自然素材の良さを五感で感じることができる。

―札幌市東区伏古で計画する「菜園生活プロジェクト」とは。

札幌の中心部で、プチ田舎暮らしを楽しむ有機菜園のある住まいを提案している。ただ家を並べて建てて売るだけじゃなく、ある意味、ライフスタイルを提案するプロジェクトになっている。今月25日には説明会も開催する。

広さは約220坪で4区画と比較的こぢんまりとしている。各区画の販売価格は、畑のある土地と建物で3000万円ぐらいを予定する。仕様は道産の無垢材を使い、二酸化炭素排出量などの数値も目に見える形で提示したい。

食の安全が叫ばれる昨今、自分たちで耕した畑で安全な食物を作りたいという人が増えている。ドイツのエコビレッジには及ばないが、道産材を多く使ったナチュラルハウスに住み、安全・安心な野菜を自分たちで作る。

そして、菜園のつながりがコミュニティーガーデンに発展し、価値観を共有することで、いつの間にか良好な住民関係を形成できる。子どもには日常生活が環境教育の場になっていく。そんなコーポラティブ方式の家づくりをぜひ実現させたい。